

診療科目 ● **消化器・腫瘍外科学**

● **消化器・腫瘍外科教室 B. 乳腺外科専攻コース**

プログラム責任者：遠藤 格

附属病院	乳腺外科コース
主任教授	遠藤 格（消化器・腫瘍外科学教授）
助教	菅江 貞亨
指導診療医	鈴木 千穂、木村 安希
附属市民総合医療センター	乳腺甲状腺外科
助教	成井 一隆、山田 顕光
指導診療医	足立 祥子

本プログラムの特徴

一般外科医としての基本的な診療技術・手術手技を身につけると共に、化学療法、内分泌療法、分子標的療法を中心とした「がん集学的治療」について研修することを目的とする。第一段階としては、日本外科学会専門医の習得が可能となる手術症例を経験すること、および取得条件に必要な学会発表、論文発表の機会を経験することを目標としている。また、がんの集学的治療については、病理学、放射線治療学、緩和医療学についての研修・習得機会が得られるように配慮している。

後期研修終了時（卒後5年目）に外科専門医取得を目指し、後期研修2年修了時に外科学会専門医予備試験（筆記試験）を受験し、研修終了時点で認定試験（面接試験）を受験可能なレベルに到達できるようにする。3年間の研修期間中、1年は大学附属病院または市民総合医療センターでの研修を行ない、他の2年間は関連病院での研修を行なう。専門医取得条件である乳腺外科領域以外の術式—消化器・心臓血管、呼吸器、小児、甲状腺、麻酔など—に関しては、初期研修期間中の研修が望ましいが、未経験の場合には関連病院もしくは大学施設内で研修ができるように配慮している。

目 標

乳腺疾患治療学（手術、化学療法、内分泌療法、放射線療法、病理診断学）や外科学総論についての知識を習得し、マンモグラフィ、超音波画像診断はもとより、外科基本手技、乳腺外科における一般的な手術手技（乳房切除、乳房温存術）を身につけて専門医の習得を目指す。

目標とする学会認定専門資格

日本外科学会専門医	日本乳癌学会乳腺専門医
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医	日本がん治療認定医

主な協力病院

国立病院機構横浜医療センター、横浜市立市民病院、藤沢市民病院、横須賀市立市民病院、伊東市民病院、横須賀共済病院、済生会横浜市南部病院、横浜市立みなと赤十字病院、横浜掖済会病院、NTT 東日本関東病院、済生会若草病院、湘南記念病院、横浜労災病院、横浜保土ヶ谷中央病院、長津田厚生病院

診療科のホームページ URL	担当者・連絡先
http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~dai2geka/	松山 隆生 E-mail : ryusei@yokohama-cu.ac.jp TEL:045-787-2650

診療科の実績

附属病院で年間80名以上、市民総合医療センターでは年間250名以上の乳癌手術症例があり、2施設の合計では県内有数の手術症例数となっている。また、形成外科と提携しながら一次的、二次的乳房再建術も積極的に行なっている。薬物治療を中心とした全国規模の臨床試験にも参加しており、神奈川県内外のオピニオンリーダーとして活躍している。主な関連施設として、横須賀共済病院、済生会横浜市南部病院、湘南記念病院などがあり、年間100例以上の乳癌手術症例を経験できる。その他、横浜市立市民病院、藤沢市民病院、横浜医療センター、横浜市立みなと赤十字病院、横須賀市立市民病院などの学会認定・関連施設でも経験・研修が可能である。

また、神奈川県内外で乳腺外科関連の研究会を主催することで、基礎から臨床まで最先端の知識を習得することが可能である。大学・関連施設で経験した乳癌関連学会の会長、実行委員長以下の通りである。

2006年12月：第3回日本乳癌学会関東地方会（会長、実行委員長）

2007年11月：第17回日本乳癌検診学会（実行委員長）

指導医から一言

専門医プログラム（後期研修）は、乳腺専門医を習得するための第一ステップであり、外科専門医をできるだけ効率的に3年間で取得できることをめざしています。具体的には、大学施設で乳腺疾患のほか、消化器癌、炎症性腸疾患、肝移植、悪性腫瘍一般の化学療法などを研修することができます。腹部救急、外傷、呼吸器外科、その他の一般外科については、主に研修協力病院で研修していただくこととなります。外科専門医プログラム（後期研修）終了後は、大学病院を中心に基礎・臨床研究に携わっていただきます。希望者には大学院へ進学していただき、トランスレーショナルリサーチの分野で学位（医学博士）を取得していただきます。外科専門医取得後は、乳腺専門医取得を目指したプログラムを継続していただきます。「がんの集学的治療」の習得については、各個人の希望に従って腫瘍内科（臨床腫瘍科）、病理診断、放射線治療、形成外科で研修することも可能です。

また、看護師、薬剤師、診療放射線技師などを交えた「チーム医療カンファレンス」も開催しており、乳癌の直接的な治療だけでなく、看護や在宅診療も視野に入れた「乳癌に関する総合診療」の習得を目指しています。このように、我々の診療科では、技術、研究面で欧米諸国に遅れをとらないようなグローバルな卒後教育をめざしております。ぜひとも本診療科の専門医養成プログラムにご参加いただければ幸いです。